

かけはし

お家のみなさまへ

一小だより

No. 4 24・7・23

夏休み

校長 大村 亨夫

今日は終業式。いよいよ明日から夏休みです。私は、子ども達に3つのことをし・ぬ・なで呼びかけました。

し・・死んではいけない。ぬ・・盗んではいけない。な・・怠けてはいけない。

夏の暑さと解放感で、私達の気持ちはどうしても緩みがちになります。休みとはそういうものなのでしょう。しかし、事故や犯罪・非行につながるような行動を自制するだけの注意力と判断力は失いたくないものです。それから、怠けないことについて一言。「良い習慣は、才能を上回る」という格言があります。例えば、スポーツの場合、弱小チームを常勝軍団に育て上げる監督に共通する指導。それは、生活習慣の立て直しです。よい習慣の確立から入り、体と技を鍛え上げます。小学生にここまで求めようとは思いませんが、<せめて>早寝早起きの生活リズムを崩さないことや、ゲーム・テレビに流されない生活は守って欲しいものです。

私は、夏休みの学びは日常の中にあると思っています。宿題を計画的に進める事は大切なことです。基本です。しかし、学習することはそれだけではないはず。おばあちゃんやおじいちゃんの生活やはなしから教えられること。畑に行くと発見する新しいこと。お昼の料理を手伝うことで知る何か。生活が学びになっていくチャンスです。大人になって役立つことがたくさんある毎日が夏休みだと思います。<我以外、みな我が師なり>学校だけが学びの場ではありませんし、教師だけが先生でもありません。<家族みんなが夏休みの先生>なのだと確認し合ひましょう。

最後に、読売巨人軍の監督として、いわゆるV9を成し遂げた川上哲治さんが書いたエッセーを紹介。「夏休みの父の背中」

川上さんが少年のころの話です。広場で凧あげをしていたところ、糸が絡まってしまったのです。糸と格闘する哲治さんが後ろを振り返ると父親が立っています。「かしてごらん。」お父さんは、一生懸命に複雑に絡んだ糸をほどいてくれます。しかし、なかなかほどけません。哲治さんはたまらず言います。「お父さん、もういいよ。帰ろうよ。凧糸は家にたくさんあるし、切ってつなげばいいじゃないか。」すると父親が振り返って「いったん取りかかった仕事は成し遂げなければ男じゃないんだよ。よく覚えておきなさい。」とだけ言い、それから黙々と1時間かけて糸をまっすぐにし、もう一度凧を上げたのだそうです。

川上さんは言います。「私は、青い空を見ると、今でも凧と父の言葉を思い出します。」

選手として監督として偉業を成し遂げた川上哲治さんの努力。その努力を支えた裏に何気ない父の教えがあったことは間違いなさそうです。

子どもはすぐに大きくなってしまいます。短い夏にどこか似ていて。

1年生が植えたアサガオが咲き始めました



1学期をふり返って

4年 女子

私が、この1学期にがんばったことは、大きく3つあります。

まず、学習面では、全校漢字テスト・計算テストです。1回で百点が取れるように、毎日のじゆぎょうでしっかり先生の話の聞いたり、自主学習をたくさんして、何度もくりかえし練習したりしました。算数テストは1回で合格できてうれしかったです。でも、漢字テストはおしくも1問まちがえてしまったので、2学期こそは、両方のテストで合格できるように、見直しや練習にしていねいに取り組みたいです。

次に、運動面では、550走です。休み時間にもがんばって走り、この1学期でカード1枚をクリアしました。2学期は長いので、もう2枚は達成できるように計画を立ててがんばりたいです。

また、大好きな水泳にも力をいれました。スイミングでは今年からせんしゅコースに入って練習をしています。メニューがむずかしくなったのでつらいことも多くなりましたが、記録がのびていくのが楽しいです。7月16日に行われた大会では、2種目に出場してどちらもじこベストのタイムでした。もっともっとがんばりたいです。

最後に、3つめのがんばりは、けじめのある生活です。4年生では、学級でのがんばりを集めた、大きな海の絵を作っています。みんなのがんばりがふえるほど、海の絵の中に魚がふえていきます。1学期は、めあての30ぴきの魚を集めることでした。みんなで力を合わせてクリアできたときは、みんなで大よろこびしました。2学期もつづけたいです。

2学期には、水泳大会や運動会、一っ子フェスティバルなどの行事がたくさんあります。わたしは、自分できめた目ひょうに向かって、自分の力を信じて最後まであきらめないでがんばっていきたいと思います。

終業式 ～1学期73日 がんばりました～



五五〇マラソンは十五人が表彰



読書賞は三人が達成・表彰



2学期 みんな元気にあいましょう。よい夏休みを！